

森田氏3選も不満顕在化

26日に投票された知事選で現職の森田健作氏(67)が3選を果たした。自民、公明両党の県レベルの支持を得るなど組織を固め、前回選挙の123万票には届かなかったものの、2番手の前浦安市長、松崎秀樹氏(67)に74万票余りの大差をつけての勝利だった。関係者からは、顕在化した県政運営への批判を謙虚に受け止め、市町村との連携を求める声が出た。

千葉市中央区で26日夜にあった報告会。森田氏は「チー△千葉」で、4年間頑張らせていたきたい」と集まった支援者を前に、力を込めた。

森田氏の知名度の高さは知事選で健在だった。街頭では握手や写真撮影を求める人ばかりが各所でできた。

東京湾アクアライン通行料800円化など2期8年の実績を掲げたが、その恩恵を大きく受ける内房地域以外の演

知事選振り返る

支援者「市町村の声聞き連携を」



旭市で開かれた森田健作氏(左から2人目)の個人演説会には、自民党の桜田義孝県連会長(同3人目)、公明党の富田茂之県本部代表(同4人目)が顔をそろえた=16日、旭市

説では医療や子育て支援策に多くを割いた。空港の機能強化への対応で県への不満が強いとされる成田市で開いた演説会では、大きな身ぶり手ぶりを交えた演説を封印し、「世界に誇れる空港にしないといけない」と訴えた。街頭演説や個人演説会に

は、自民、公明両党の国会議員、県議に加え、松崎陣営が支持の広がり期待した県内の首長も参加した。県政批判の拡大を期待した松崎氏だったが、得票率は21%にとどまった。香取市の宇井成一市長が早々に支持を明らかにしたが、



選挙戦最終日、松崎秀樹氏の応援に駆け付け、握手をかわす宇井成一、香取市長(左から2人目)。この後、一緒に遊説し、街頭演説も行った=25日、JR船橋駅南口

松崎氏のもとに県内の首長から「表立って支援できず申し訳ない」と連絡が何件も入ったという。事務所の壁に貼られた「祈 必勝」と書かれた県内の首長からの書き置きは5枚。松崎氏が敗戦の弁を語る中で口にした「現職の壁」を象徴していた。

松崎氏の青年会議所(JC)時代から交流が続き、今回同氏を支援した成田市の自営業の男性(63)は「本来なら後援会を成田で立ち上げ、応援したかった。自民党への遠慮もあり、やりにくかった」と漏らした。

ただ、松崎氏の立候補で県政への不満が表面化したのは確かだ。首長からは「現場に来てくれない」「なかなか直接会えない」、自民党県議からも「日本一会えない知事だ」との声が漏れた。2020年東京五輪・パラリンピックによる県内活性化、成田空港の機能強化に加え、医療や福祉、教育政策の充実など山積する課題に対して、県の主体的な取り組みを望む声も多い。

公明党の富田茂之・県本部代表は「選挙戦で色々批判もあった。謙虚に受け止めて、千葉県を引っ張っていたきたい」。自民党県連の幹部は「県内の格差などへの具体的な対策は示されていない。五輪が成功したらすべてよしではない。3期目は県政運営をより厳しくチェックしていかなければならない」と話す。

当選が決まった後のあいさつで「『なんだ森田。お前こらうじゃないか』とどんどんおっしゃって下ろす」とも述べた。市民団体「新しい知事を選ぶ会」ちは「擁立した角谷信一氏(62)は、長年、高校教諭を務めた経験から教育改革などを唱えた。擁立に時間がかかり、立候補表明にこぎつけたのは告示まで1カ月を切った2月中旬。陣営関係者も「まったく無名なのに時間がなかった」と明かす。「市民と野党の共闘」を掲げ、共産党や自由党が中心となり支援。共産党の浮揚幸裕県委員長は「市民が中心となつた初めての取り組みで一歩前進だ」と評価した。しかし、民進党が自主投票としたことで、昨夏参院選に続き、知事選でも同党を交えた野党共闘は実現せず、その難しさが改めて浮き彫りになつた。(土肥修一、長屋護、市田政考)